



【やまもと ゆたか さん】北光  
●「ちとせ・まち魅力検定実行委員会」実行委員長。  
平成22年に市が開催した協働事業発表審査会で、「まち検」の提案をしたメンバー4人の中のひとり。  
※「まち検」の募集要項は19ページをご覧ください。

## ご当地検定がまちの 魅力を知るきっかけに



「まち検」の可能性などをテーマに意見を交わした「観光フォーラム」のようす（11月20日(日)開催）

## 来

年2月に、千歳版のご当地検定（通称「まち検」）を行います。

ご当地検定は、ある特定のまちなどについて、文化や歴史などの知識がどれくらいあるのかを測る試験のことです。現在までに全国で約240の検定が行われています。

多くの検定は、市町村や商工会議所などの主催で行われていますが、「まち検」は、市民が集まって立ち上げた検定です。

2年前に市が開いた講座で、山本さんを含む4人の提案した内容がきっかけとなった「まち検」。その後、実行委員会を結成し、現在、25人の委員が問題づくりなどの準備を進めています。

「自由に意見を発表できる雰囲気をつくり、幅広い考えを取り入れることができるのがこの会の特徴です」と山本さん。委員による会議の場ではさまざまな意見が飛び交い、そのひとつひとつに時間をかけてじっくりと話し合います。

千歳には、交通・商工業・農業・自然環境など、たくさん資源があります。また、皆さんの身近なところがあり、住み続けていることで「あたりまえ」と思っているものが、もしかするとまちの大切な「魅力」なのかもしれません。

千歳で生まれ育った山本さんも、以前、仕事で千歳を離れたところがあり、そのときに改めて美しい景観や食べ物などの「千歳の魅

力」に気づいたと言います。

「検定を受けることで、まちの歴史や文化、自然などの魅力を知りきっかけになってほしい。そして、ふるさと千歳を好きになってほしい」と話します。

さらに、ふるさとを好きになると、このまちに住み続けたい、もっと良いまちにしたいという気持ちが生えます。検定を行うことで、魅力を実感できるまちづくりにつなげたいと考えています。

今回の検定で合格するには、7割以上の正解が必要となります。「当然、皆さん合格を目指して受験することだと思います。ただ、仮に不合格になっても、検定を受けたことが無駄にはなりません。わ

からなかった問題は、ふるさとの新しい発見で、受験した皆さんの財産になります。千歳に長く住む方も、新しく転入した方も、検定を楽しんでほしいですね」と山本さん。

ご当地検定が長く続いているまちでは、地元の観光業に関わる方が必要な資格として積極的に受験したり、学校の授業に組み込まれたりするなど、具体的な効果が生まれています。効果が表れると、検定の価値は高まります。

「検定の効果は、受験する方が増えることで少しずつ表れるものです。千歳で初めての「ご当地検定」ぜひたくさんの方に受験してもらいたいですね」と力をこめて語ってくれました。

人のいる風景  
SCENERY OF PEOPLE



山本

YUTAKA  
YAMAMOTO

豊

さん